

福島県の広報誌は、創刊200号を迎えました！

200

1970.8 - 2005.10



みんなの  
好奇心

⑮

県庁

探検！

「200号発行記念」

「夢だより」こと「ふくしま県民だより」が創刊されたのは昭和45年8月。

以来、県民の皆さんとともに考え、ともに作る県広報誌として

歩みを続けて35年、本号で200号を迎えました。

その記念特集として、「みんなの好奇心」で県庁をとりあげることになりました。

県庁の内側がどうなっているのか、どんな役割を果たしているのか、探検してみましょう。

この特集を見れば、あなたも“県庁通”になれること請け合いです。

合わせて、広報誌の歩みや広報広聴の役割についても簡単にご紹介します。

いつもとはちょっと違う夢だより。存分に楽しんでいただければと思います。

はりゅう  
田島町立針生小学校5年生の皆さんの好奇心です

本庁舎正面玄関に  
全員集合！



## 県庁マメ知識 ①

### 福島県が誕生して130年

現在の福島県は、廃藩置県で生まれた福島・若松・磐前の3県が明治9年(1876年)に合併して誕生しました。誕生日は前号で紹介した「県民の日」の8月21日で、来年で130歳になります。初めて県庁舎が建てられたのは明治13年(1880年)。次いで明治40年(1907年)に再び新築されています。現在の県庁舎は、本庁舎が昭和29年、西庁舎が昭和46年にそれぞれ建てられました。



1880年新築の県庁舎。  
当時の県人口は82万3120人。



現在の県庁舎。  
現在の県人口は209万5900人。



議場

県の仕事や予算を審議して決定するところ。

県庁見学は議場からスタート。

ここは県民が選挙で選んだ県議会議員が、県のいろいろなことを審議したり決めたりするところ。58の議員席と議長席や執行部席、両脇に報道席、222の傍聴席があります。

スタート



発言する議員の持ち時間は決まっています、残りの時間がパネルに表示されます。みんなの中にも将来この議場に座る人が出てくるかもしれませんね。



みんなの  
好奇心

もっと知りたい、見てみたい!  
県庁のいろいろ。  
さあ、みんなもいっしょに**県庁**を  
誌上**探検**してみよう!



110番で通報するときは、

①いつ②どこで③何があったかを、  
落ち着いて話してね。



通信指令室  
見学中、ひっきりなしに  
110番通報が。

建物は古いけれど県庁には最新の通信システムがあります。ここ警察本部にある通信指令室もそのひとつ。県内の110番通報はすべてここで受信され、現場に最も近いパトカーにすぐに連絡できる仕組みになっています。大型画面には現場の詳しい地図が表示されるので、指示は的確で迅速です。いっような形で起きるかわからない事件や事故。そのため指令室は365日24時間体制で対応しています。

昼食は西庁舎の  
食堂で。  
好きなメニューを  
選んでね。



食堂

こうした情報はインターネットや携帯電話でも見ることができ、家や学校で調べてみましょう。



ここ数年、1時間に降る雨の量が  
50~70mmという大雨や  
カミナリが増えているんだって。

<http://www.pref.fukushima.jp/kasen/>

河川流域総合情報システム  
雨量や水位をつねに観測  
して、情報を全県に提供。

県内各地で自動計測している雨量、ダムのデータ、河川の水位データなどは、すべてこのシステムに送られてきます。送られてきたデータは集計処理や図形処理された上で、県内の市町村や建設事務所へ転送され、全県の河川の様子がわかる仕組みになっています。



ついでに福島市を360度ウオッチング



屋上には衛星系と地上系の巨大なアンテナが!



無線統制室  
防災のために衛星通信と地上回線をフル活用。

この部屋は、地震や台風などの情報を正確にスピーディーに伝達するための無線基地。気象台との情報のやりとりや県内の市町村、関係機関を専用の通信回線で結んで防災に役立てています。音声や映像も送れるし、ヘリコプター無線や道路パトロールカーともふうの電話で話してみたいに話ができます。わたしたちの暮らして地域の安全は、こんなシステムで守られているんですね。



みんなの住んでいる田島町は、どんなまちづくり計画をしているんだろう。田島町の都市計画図面を見せてもらいましょう。

下水道のマンホールって市町村ごとにデザインが違っていて知ってた?



都市領域  
県庁で働いている人たちの職場を見学。

ここは都市領域の部屋。たくさんの方が机に向かつて仕事をしています。都市計画・まちづくり推進・都市整備・下水道・空港管理という5つのグループで構成されています。



## 県庁マメ知識 ②

### 県庁があるのはお城の跡地

県庁が建っている場所には、かつて福島城(杉目城、大仏城とも呼ばれました)がありました。本庁舎の東側にある紅葉山公園や西庁舎裏の土塁の一部にその名残を見ることができます。平成14年(2002年)に、福島城が存在したことを後々まで伝えようと、県庁入口には記念碑が建てられました。福島城を初めて名乗ったのは、文禄元年(1592年)に城主となった木村吉清(蒲生氏郷の家臣)です。「福島」という名前の由来はよくわかりません。福島市周



辺は昔は見渡す限りの湖で、その中心にあった信夫山を「浮く島」に見立てたとか、信夫山に吾妻おろしが吹きつけたので「吹く島」と呼んだとか様々な説があります。

### 県庁探検、みんなの感想は?

- 😊 知事公館を見たり、特別室の椅子に座ったりして自分が偉くなった感じがした。
- 😊 雨量や川の水位がわかるので安心できる。
- 😊 インターネットで川やダムのことを調べてみたい。
- 😊 110番通報を警察の人が受けているところを初めて見てすごいと思った。

## 知事公館

天皇陛下が休憩された特別室もしっかり見学。

いったん庁舎から出て、庭を通り抜けたところに建っているのが知事公館。静かできれいな建物です。大中小の会議室のほかに和室や特別のお客様をお迎えする部屋もあります。特別室では天皇・皇后両陛下がお座りになった立派な椅子に、ちょっとしただけ座らせてもらいました。



大会議室でジュースが配られてひと休み。見学コースもいよいよ終盤。あとは紅葉山公園を通りぬけて、ゴールをめざしましょう。



## ゴール

本庁舎正面玄関からスタートして紅葉山公園まで10カ所を探検しました!



緑を抜けるといよいよゴールです!

これは河野広中(自由民権運動の指導者)の碑。衆議院議長にもなった政治家だよ。

住宅、公園、街路など  
住みよい町づくりを  
めざして  
さまざまな施策が  
推進されました。



1975  
昭和50年



第18号



(昭和50年6月1日発行)

当時ブームとなっていたテレビエンターテインングを楽しむ  
若者の姿が紹介されています。



新幹線や  
高速自動車道によって  
もたらされる  
豊かな生活が  
思い描かれています。

1971  
昭和46年



第4号



(昭和46年12月10日発行)

表紙は、空襲したばかりの県庁西庁舎。  
当時は東北の高さを誇っていました。

1970  
昭和45年



第1号



(昭和45年8月1日発行)

第1号の表紙は、偶然にも本県がサッカーと  
深く関わっていくことを予感させるものでした。

ふくしま県民だより第1号が発行されたのは昭和45年。本号で創刊200号を迎えるにあたり、  
県民の皆さんと自治体の架け橋としての役割を担ってき  
た  
広報誌35年間の歩みを振り返ってみましょう。

# 愛されて200号 県広報誌の35年

この号から、  
年6回の発行となり、  
紙面もコーナーが  
確立されて、  
現在のスタイルに  
近くなっています。  
自然保護や不況対策、  
住環境整備などが  
取り上げられていて、  
今も抱えている課題が  
すでに表れていたことが  
わかります。

紙面はカラー化され、  
ページ数も8ページに  
増えています。  
不定期であった発行も、  
翌年から年4回となりました。  
記事では、  
東北新幹線路線決定や  
只見線開通などの  
明るい話題のほか、ドルショック  
(金ドル交換停止)対策  
としての緊急融資制度などが  
掲載されています。

第1号はタブロイド判  
4ページで発行。  
表紙は、  
福島市立第一中学校  
サッカー部の皆さんです。  
当時大きな社会問題と  
なっていた公害や  
交通事故に対する  
取り組みのほか、  
15年後の福島を  
予想した長期展望が  
掲載されています。

改めて  
広報の役割を  
振り返る

200  
1970.8-2005.10

「広報」という用語は、戦後、「パブリック  
リレーションズ(P.R.)」という言葉がアメリ  
カから導入された際にその訳語として  
誕生しました。そして、行政とP.R.活動と  
は切っても切れない関係にあります。

その理由は、日本国憲法の基本原則で  
ある「国民主権」にあります。政府・行政  
は、主権者(統治者)である国民に対して  
政府が何を行っているのか、どのような行  
政サービスが受けられるのかを知らせる  
とともに、国民の期待や要求を正しく  
知り、行政活動に反映していくことが求  
められます。このことは、県や市町村とい  
った地方自治体にもあてはまります。

行政P.R.活動としての広い意味での広  
報は、広報と広聴に分けることができます。  
それぞれ次のような役割を担っており、  
しばしば車の両輪に例えられます。

**広報**：県の施策や事業など行政情報を  
わかりやすく提供し、県民の皆さんの理解  
を得、参加してもらう。

**広聴**：ご意見やご要望など県民の皆さん  
の声を広くお聴きして、施策の立案や事  
業の実施に生かしていく。

県では、この2つの機能をお互いに連携  
させながら、これからも県民の皆さんと  
の架け橋となるような広報を目指します。



100号を迎えた  
広報誌に、県内から  
意見や感想が  
寄せられました。



平成5年4月、  
会津大学開学。  
わが国初のコンピュータ理工学部に  
272人の一期生が入学しました。

2003  
平成15年

1993  
平成5年

1989  
平成元年

1980  
昭和55年



第186号

第126号

第100号

第48号



(平成15年6月1日発行)

これまでのイメージを変える表紙となり、  
多くの皆さんから大変な反響がありました。



(平成5年6月1日発行)

本県初の単独開催となる国体を盛り上げるため、  
平成7年12月まで競技に励む選手たちが表紙に。



(平成元年2月1日発行)

小学校の英語クラブの様子。  
表紙に初めて外国人の人が登場しました。



(昭和55年6月1日発行)

表紙は、県内各地の元気に遊び学ぶ子どもたちの姿を  
紹介するシリーズに。

表紙のデザインも  
誌面構成もガラリと変わり、  
ページ数も倍の16ページに  
ボリュームアップ。  
このリニューアルを機に、  
県民の皆さんから  
愛称を募集して、  
広報誌のネーミングを  
「うつくしま夢だより」と  
しました。

これまでのタブロイド判から、  
コンパクトなA4判に。  
さらに、全ページが  
カラーとなって、  
見やすく読みやすい  
誌面になりました。  
開学間もない会津大学や  
この2年後に開催を  
控えていた  
ふくしま国体の話題などが  
紹介されています。

平成になって、  
最初の発行が記念すべき  
第100号になりました。  
当時建設が進められていた  
福島空港や  
磐越自動車道などの  
話題のほか  
県民の皆さんから寄せられた  
100号を迎えての  
ご意見・ご感想が  
掲載されています。

新しい紙面構成となり、  
表紙は全面を写真で構成。  
県の施設などを  
読者の主婦が訪問し、  
感想や意見を寄せる  
「ママさんレポーター」、  
毎回テーマを決めて  
県民の皆さんのご意見を  
募集・掲載する「県政の視点」、  
地域づくりで活躍する  
グループを紹介する  
「私たちのまちづくり」などの  
コーナーが開設されています。

●夢だよりを通じて思うことは、福島県全体の動きがよくわかるということです。いわきに住んでいると、他の地方の動きは、自ら意識し、能動的にならないとなかなか情報が入ってきません。夢だよりを読むと、県政の目指すもの、将来のビジョンがよくわかります。これからも大切に読みたいと思っています。

●その他多くのお便りが寄せられました。ありがとうございました。

いわき市  
高木佳子さん(30代)

●夢だよりは、私の時をいやしてくれず。福島県民としていろいろな情報を知ることができ、とても助かります。何度も拝読しては一日日を大切に過ごしております。他県の方にも夢だよりをもっと知ってもらいたいですね。より良い誌面づくりを願います。スタッフの方々も体に気をつけてがんばってください。



いわき市  
猪狩正人さん(40代)

●いつも興味ある誌面、ありがとうございます。福島県を誇りに思える広報誌づくりをしているスタッフの皆さんの苦労が目に見えます。これからも知りたい情報、そして知らなければならぬ情報を、限りある誌面で伝えてください。健康にはくれぐれも気をつけてください。



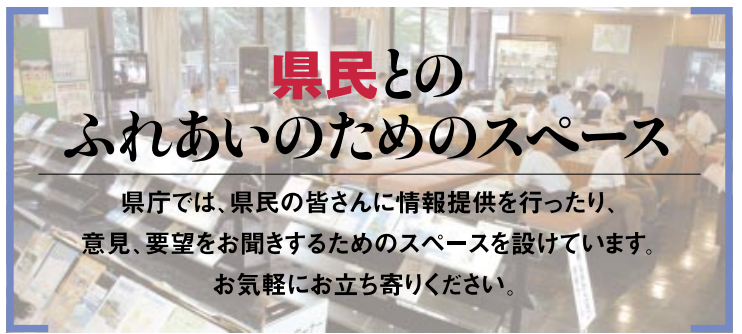
田村市  
柳沼邦子さん(60代)

●今回が200号だそうでおめでとございます。地域密着の旬な話題を楽しみにしています。身近な話題が多く、いつも新たな発見があります。



会津若松市  
鴨井喜子さん(50代)

200号発刊に  
寄せられた県民の皆さんの声



## 県民との ふれあいのためのスペース

県庁では、県民の皆さんに情報提供を行ったり、意見、要望をお聞きするためのスペースを設けています。お気軽にお立ち寄りください。

### 県民ホール

西庁舎2階

● オープンスペースになっています。

ここは、県庁に来た人の休憩所であり、広報の場でもあります。県庁総合案内のほか、県内各地の観光パンフレットを並べ、ポスターを貼ったり県産品を展示するなどしています。

問県庁県政広聴グループ

☎024(521)7013

### 県政情報センター

西庁舎1階

ここでは、県が作成した行政資料の閲覧や貸し出しを

行っています。情報公開や個人情報保護についての案内も行っています。

問県庁文書法規グループ

☎024(521)7053

### 県政相談室

本庁舎2階

県政に関する意見・要望・苦情などを始め、生活上の悩みごと全般についての相談を受け付けています。交通事故の加害者や被害者のための損害賠償や示談などの相談も受け付けています。

問県庁県政広聴グループ

☎024(521)7016



福島県知事  
佐藤 栄佐久

## 県民主役の 広報誌を目指して

県民だよりが産声を上げてから今号で200号を迎えました。この間、時代の移り変わりに対応しながら、県政の主要施策や話題、各地域の情報を県民の皆さんにわかりやすくタイムリーにお

伝えしてきました。

現在、わが国では、さまざまな社会システムの再構築が行われていますが、県では、国↓県↓市町村↓住民という従来の流れを逆転し、住民主役の真の地方分権社会

の実現を目指した取り組みを進めています。

県内全戸に配布され、皆さんと県とをつなぐ最も身近なパイプ役である夢だよりも、県民主役の新しい社会にふさわしい広報誌を目指して、これまで以上に愛され、親しまれ、役立つ誌面づくりに努めてまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願いします。

### 野菜編

## 「ヤーコン」

ヤーコンは、見るとサツマイモのようです。南米アンデス高原を原産とし、アンデスポテトとも呼ばれています。日本には20年前に入ってきました。

驚くべきは、野菜類では最高値の「フラクトオリゴ糖」と、赤ワイン並みの「ポリフェノール」が含まれていることです。整腸作用や抗酸化作用など、その健康機能性が注目されています。

味は、適度な甘みがあり、梨のようなサクサクとした食感があります。5〜10分

## 発見

うつくしま



くらい水にさらしてアクを抜くと、生のままおいしく食べられます。サラダや炒め物、煮物に最適です。



【出荷時期】11月〜3月

問県庁園芸振興グループ

☎024(521)7355